

第十二章 開成社創業五十年記念

第十二章 開成社創業五十年記念

一、式典

開成社の事業を仮に三期に区切れば、初期は創業期、第二期は進行期、第三期は守成の経営に入るとみなされよう。業歴五十年を重ねるに至れば万障百曲折の開成社も守成態勢に安定し得たのである。

明治六年創始の社業は、大正十二年五十年に達し、記念式典が六月二十三日開成山大神宮社前で行われた。松方正義を主賓に知事岩田衛ほか安積郡長木村由太郎ら二百余名の官民有志参集、橋本方右衛門社長式辞、知事、郡長その他の祝辞、阿部孔三副社長の謝辞で閉式のあと祝宴、展示会が催され五十年既往を回想しながら盛況の中に散会した。多数の祝辞のうち、岩田知事祝辞の要旨を左に掲ぐ。

二、祝辞 福島県知事祝辞

(前略) 今や安積万頃の沃野は年と共に豊穰を加え、此間郡山町亦近く市制を布かんとするの殷盛を見る、此時に当り遠く開成社創立の當時を追想し転た今昔の感に堪えざるものあり、惟うに維新當時にありては安積の平野たる人煙稀にして耕作行われず唯荒蕪に委するの状態なりしも、明治五年安場保和本県々令に任せられるや時既に干戈戦まり諸種の産業漸く其緒に就かんとするの気運に向いたるを以て最も農産業の勸奨に力を用ゆる所あり時の参事山吉盛典親しく本郡を巡視し開拓の急務なるを説くや県令其議を容れ、翌六年三月典事中条政恒に命じ初めて安積原野開拓の事を掌らしむ、政恒乃ち四方に檄して之れが希望者を募りたるも其用を弁ずるに至らず茲に於て之を郡山町阿部茂兵衛に諮る。有志者奮発して之に応じ開拓の計画を樹て日夜奔走同志二十四人を得結束して一社を成したるものは実に開成社なり。開成社は爾來幾多の艱難曲折を経て遂に三百余町歩の開拓を了え茲に新村桑野を建設するに至る。(中略)

抑富国の要道利民の根源固より各種産業の發展に俟たるべからざるも其基調をなすものは農業を以て第一とす。即ち農業整備して而して初めて商工業の殷盛を来すべきは古来の順序にして郡山町の氣運各種方面に高潮し来れる偶然に非らざるなり。(下略)

三、五十年記念帖刊行

創業沿革の概要に三十余葉の写真を収録した五十年記念帖を刊行した。写真は社員の所蔵になる書画に開墾地の旧態と現況を対照した景觀を余すところなく網羅してある豪華な装本と相まって半世紀の社業をしのぶにふさわしいものである。